

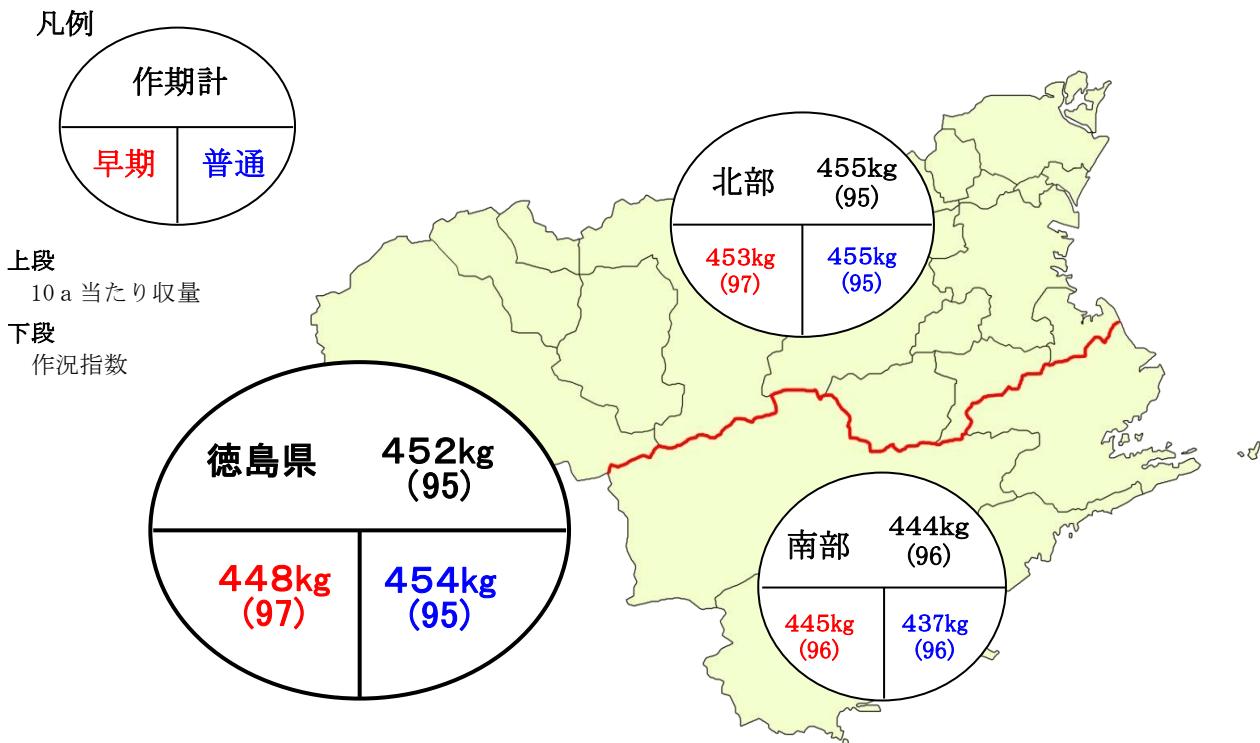
平成26年産 水稻の収穫量（徳島県）

—— 10 a 当たり収量は 452kg（作況指数 95） ——

【 調査結果の概要 】

- 1 徳島県における平成26年産水稻の10 a 当たり収量は 452kg（作況指数 95）、収穫量（子実用）は 5万9,700t となった。
また、主食用作付面積に10 a 当たり収量を乗じた収穫量（主食用）は 5万7,900 t となった。
- 2 作期別にみると、早期栽培の10 a 当たり収量は 448kg（作況指数 97）、普通栽培の10 a 当たり収量は 454kg（作況指数 95） となった。

図 地帯別作期別10 a 当たり収量



- 1 作況指数とは、10 a 当たり平年収量に対する10 a 当たり収量の比率である。
2 本調査の調査目的、調査対象、北部、南部の範囲などは、「調査の概要」(P11)に記載している。

【解説】

1 作柄概況

平成26年産水稻の作柄は、総じて6月以降の日照不足や台風第11、12号の影響を受け登熟が「やや不良」となり、10a当たり収量は452kg（作況指数95）となった。

この結果、収穫量（子実用）は5万9,700tとなった。

また、主食用作付面積に10a当たり収量を乗じた収穫量（主食用）は5万7,900tとなった。

作期別（早期栽培・普通栽培）にみると、以下のとおりである。

(1) 早期栽培

ア 田植後の5月の気温や日照時間が平年を大きく上回り、6月の気温もやや高く推移したことから、穂数は「やや多い」となった。

イ 1穂当たりもみ数は、梅雨の影響と穂数がやや多かったことの補償作用により「やや少ない」となり、全もみ数は「平年並み」となった。

ウ 登熟は、8月以降の台風や天候不順により日照時間が平年を大きく下回ったことと、倒伏がみられたことから「やや不良」となった。

エ 以上のことから、早期栽培の10a当たり収量は448kg（作況指数97）となった。

(2) 普通栽培

ア 田植後は、早期栽培と同様の気象要因で推移したため、1株当たり穂数は「やや多い」となったものの、疎植栽培が進んでいることから、全穂数は「平年並み」となった。

イ 1穂当たりもみ数は、梅雨の影響により6月以降の日照時間が平年を下回ったことから「やや少ない」となり、全もみ数も「やや少ない」となった。

ウ 登熟は、早期栽培と同様に、8月以降の台風や天候不順により日照時間が平年を大きく下回ったこと等の影響を受けたことから「やや不良」となった。

エ 以上のことから、普通栽培の10a当たり収量は454kg（作況指数95）となった。

表1 平成26年産水稻の作付面積及び収穫量

区分	作付面積（子実用）			10a当たり 収量	10a当たり 平年収量	作況指 数	収穫量（子実用）		（参考）		
	実数	前年産との比較					実数	前年産との比較		主食用 作付面積	収穫量 (主食用)
		①	対差	対比	②	③		④=②/③	⑤=①×②	⑥	⑦=②×⑥
徳島県	ha 13,200	ha △ 200	% 99	kg 452	kg 474	t 95	t 59,700	t △ 5,600	% 91	ha 12,800	t 57,900
作柄表示地帯別											
北 部	9,340	△ 110	99	455	479	95	42,500	△ 4,500	90
南 部	3,880	△ 90	98	444	461	96	17,200	△ 1,200	93
作期別											
早 期 栽 培	5,200	△ 90	98	448	463	97	23,300	△ 1,500	94
普 通 栽 培	8,020	△ 110	99	454	480	95	36,400	△ 4,200	90

注：1 作付面積（子実用）とは、水稻作付面積（青刈り用面積を含む。）から青刈り用等面積（飼料用米を含む。）を除いた面積である。（以下の各表において同じ。）

2 主食用作付面積とは、水稻作付面積（子実用）から、備蓄米、加工用米、米粉用米等の作付面積を除いた面積である。（以下の各表において同じ。）

3 主食用作付面積及び収穫量（主食用）の内訳を「…」としているのは、備蓄米、加工用米、米粉用米等の作付面積を作柄表示地帯別及び作期別に把握していないためである。

4 作柄表示地帯別及び作期別の作付面積（子実用）の積み上げ値と徳島県計が一致しないのは四捨五入（P12参照）のためである。

表2 作期別の作付面積及び収穫量

区分	作付面積(子実用)			10a当たり 収量 (②)	10a当たり 平年収量 (③)	作況指 数 (④=②/③)	収穫量(子実用)					
	実数 (①)	前年産との比較					実数 (⑤=①×②)	前年産との比較				
		対差	対比					対差	対比			
早期栽培	ha 5,200	ha △ 90	% 98	kg 448	kg 463	97	t 23,300	t △ 1,500	% 94			
北 部	1,700	0	100	453	466	97	7,700	△ 480	94			
南 部	3,500	△ 90	97	445	462	96	15,600	△ 1,000	94			
普通栽培	8,020	△ 110	99	454	480	95	36,400	△ 4,200	90			
北 部	7,640	△ 110	99	455	481	95	34,800	△ 4,000	90			
南 部	375	△ 5	99	437	456	96	1,640	△ 170	91			

注：作期別の地帯別作付面積(子実用)及び収穫量の積み上げ値と作期計が一致しないのは四捨五入(P12参照)のためである。

表3 作柄概況

区分	穂数の多少 (平年比較)	1穂も当たりの多少	全もみ数の多少	登熟の良否	刈取期				
					始期	最盛期	終期	最盛期の比較	
								対平年	対前年
早期栽培	やや多い 平年並み やや多い	やや少ない 平年並み やや少ない	平年並み やや多い 平年並み	やや不良 やや不良 やや不良	月日 8.16	月日 8.30	月日 9.9	8日遅い	10日遅い
北 部	平年並み	平年並み	やや多い	やや不良	8.21	9.2	9.10	8日遅い	10日遅い
南 部	やや多い	やや少ない	やや少ない	やや不良	8.15	8.28	9.7	7日遅い	10日遅い
普通栽培	平年並み 平年並み 平年並み	やや少ない やや少ない やや少ない	やや少ない やや少ない やや少ない	やや不良 やや不良 やや不良	月日 8.28	月日 9.14	月日 10.12	4日遅い	5日遅い
北 部	平年並み	やや少ない	やや少ない	やや不良	8.28	9.14	10.13	4日遅い	5日遅い
南 部	平年並み	やや少ない	やや少ない	やや不良	8.27	9.12	9.29	4日遅い	4日遅い

注：1 本表の「穂数」「1穂当たりもみ数」「全もみ数」の多少及び登熟の良否に用いた表示区分は、利用上の注意(P12)に記載している。

2 刈取期の始期とは、刈取済面積割合が5%、最盛期は同50%、終期は同95%にそれぞれ達した期日である。

2 被害概況

平成26年産水稻の被害量は11,100tとなった。

被害種類別にみると、気象被害(風水害、日照不足)が被害量の67%を占め、次いで病害(いもち病、紋枯病等)が28%、虫害(カメムシ等)が4%、その他(鳥獣害等)が1%となった。

表4 被害面積及び被害量

区分	被 害 面 積	被 害 量		
		実 数	構 成	比 %
被 害 総 数	ha 56,100	t 11,100		100
気 象 被 害	26,400	7,400		67
病 害	17,300	3,110		28
虫 害	11,000	480		4
そ の 他	1,410	110		1

注：1 被害面積は、被害種類別の延べ面積である。

2 被害総数と内訳の計が一致しないのは四捨五入(P12参照)のためである。

◎ 水稲調査結果の主な利活用

- 主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律（平成6年法律第113号）に基づき毎年定めることとされている「米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針」及び米穀の需給見通しのための資料
- 食料・農業・農村基本計画における生産数量目標の策定及び達成状況の検証のための資料
- 農業灾害補償法（昭和22年法律第185号）に基づく農作物共済事業における共済基準収穫量算定のための資料

◎ 徳島県計の累年データ

区分	作付面積 (子実用)	10a当たり 収量	10a当たり 平年収量	作況指數	収穫量 (子実用)	(参考)	
						主食用 作付面積	収穫量 (主食用)
昭和59年産	ha	kg	kg		t	ha	t
60	17,700	457	414	110	80,900
61	18,000	464	418	111	83,500
62	17,700	448	424	106	79,300
63	16,700	443	427	104	74,000
平成元	16,400	441	436	103	73,300
2	16,400	434	441	98	71,200
3	16,300	436	445	98	71,100
4	16,700	425	445	96	71,000
5	16,800	388	445	87	65,200
6	17,200	504	445	113	86,700
7	16,800	484	445	109	81,300
8	16,200	472	447	106	76,500
9	15,800	449	453	99	70,900
10	15,300	452	455	99	69,200
11	15,100	464	462	100	70,100
12	14,900	476	468	102	70,900
13	14,500	471	468	101	68,300
14	14,300	476	472	101	68,100
15	14,100	453	472	96	63,900
16	14,100	463	472	98	65,300
17	14,100	487	474	103	68,700
18	14,100	457	474	96	64,400
19	14,000	475	474	100	66,500
20	13,900	504	474	106	70,100	13,900	70,100
21	13,700	471	474	99	64,500	13,700	64,500
22	13,500	471	474	99	63,600	13,500	63,600
23	13,200	463	474	98	61,100	13,200	61,100
24	13,200	477	474	101	63,000	13,100	62,500
25	13,400	487	474	103	65,300	13,100	63,800
26	13,200	452	474	95	59,700	12,800	57,900

注：「…」は、調査を欠くものである。

◎ 徳島県の早期栽培累年データ

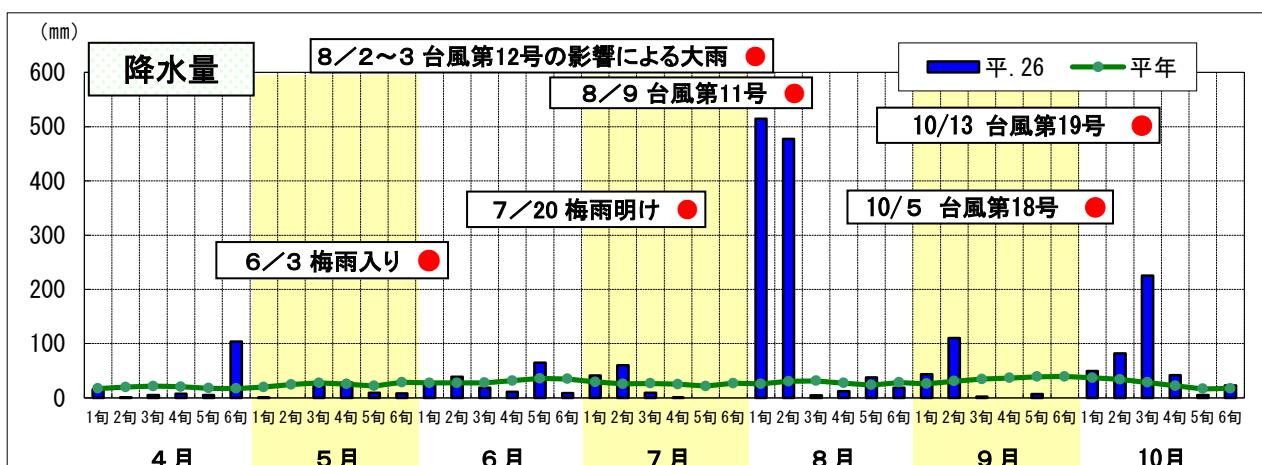
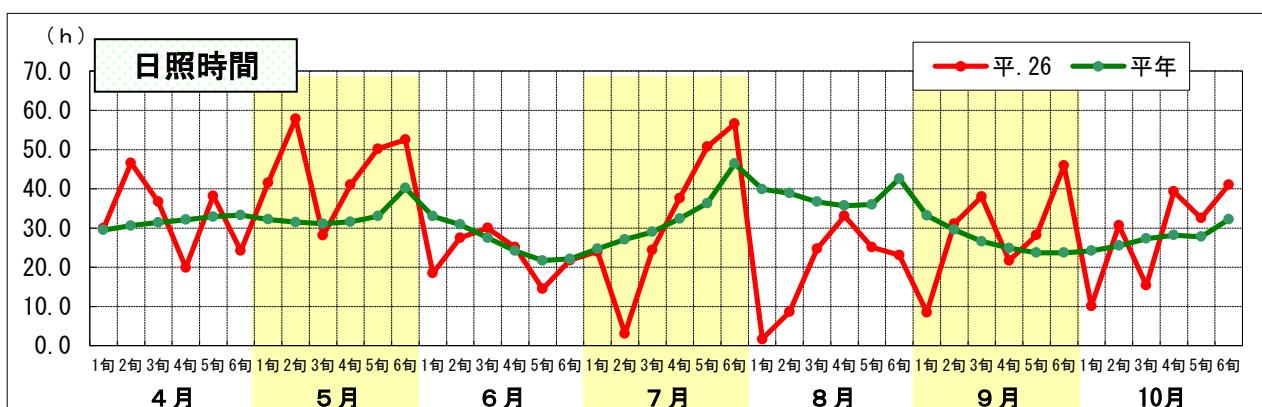
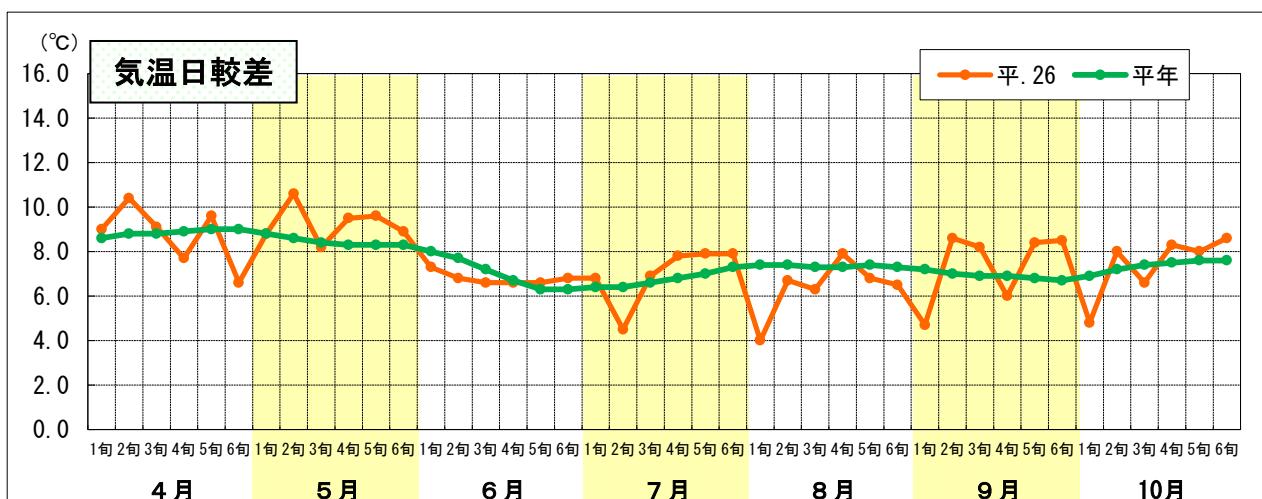
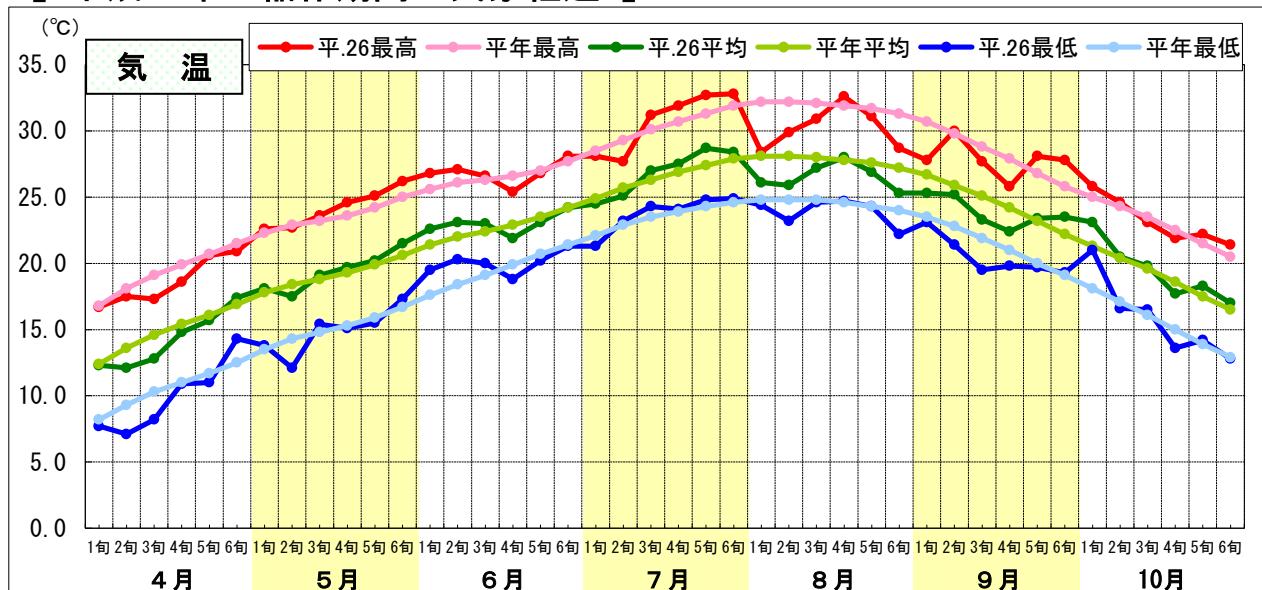
区分	作付面積 (子実用)	10a当たり 収量	10a当たり 平年収量	作況指数	収穫量 (子実用)
	ha	kg	kg		t
平成16年産	5,170	460	465	99	23,800
17	5,290	480	463	104	25,400
18	5,290	440	463	95	23,300
19	5,260	445	463	96	23,400
20	5,350	488	463	105	26,100
21	5,330	458	463	99	24,400
22	5,190	453	463	98	23,500
23	5,080	449	463	97	22,800
24	5,100	464	463	100	23,700
25	5,290	468	463	101	24,800
26	5,200	448	463	97	23,300

◎ 徳島県の普通栽培累年データ

区分	作付面積 (子実用)	10a当たり 収量	10a当たり 平年収量	作況指数	収穫量 (子実用)
	ha	kg	kg		t
平成16年産	8,940	464	477	97	41,500
17	8,790	491	480	102	43,200
18	8,780	467	480	97	41,000
19	8,710	493	480	103	42,900
20	8,520	514	480	107	43,800
21	8,410	479	480	100	40,300
22	8,290	482	480	100	40,000
23	8,140	472	480	98	38,400
24	8,120	485	480	101	39,400
25	8,130	499	480	104	40,600
26	8,020	454	480	95	36,400

【 平成26年 稲作期間の気象経過 】

資料：気象庁
観測地点：徳島



【参考1】

水稻玄米のふるい目幅別重量分布状況、収穫量（子実用）及び10a当たり収量

本調査では、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的としていることから、収量基準は、農産物規格規程に定める三等の品位（整粒歩合45%）以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mm以上で選別された玄米の重量としている（P9【参考2】参照）。

農家等が販売するために選別に使用しているふるい目幅は、地域、品種等により異なるため、刈取りを行った試料で、ふるい目幅別の重量割合並びにふるい目幅別10a当たり収量及び収穫量（子実用）を示すと、次のとおりである。

1 徳島県計のふるい目幅別重量分布状況

単位：%

区分	計	ふるい目幅					
		1.70mm	1.75mm	1.80mm	1.85mm	1.90mm	2.00mm以上
平成21年産	100.0	1.2	1.9	2.9	3.5	17.3	73.2
22	100.0	0.8	1.2	1.7	3.3	10.7	82.3
23	100.0	1.2	2.0	2.6	3.2	15.3	75.7
24	100.0	0.9	1.4	1.9	2.5	11.2	82.1
25	100.0	1.2	1.7	2.6	2.8	14.5	77.2
26	100.0	1.6	2.1	3.5	3.6	20.0	69.2
平均値	100.0	1.1	1.6	2.3	3.1	13.8	78.1
対平均差	(± イント)	0.5	0.5	1.2	0.5	6.2	△ 8.9

注：1 対平均差に用いた平均値は、直近5か年の重量割合の平均値である。（以下の各表において同じ。）

2 未熟粒・被害粒等の混入が多く農産物規格規程に定める三等の品位に達しない場合は、再選別を行っており、その選別後の値を含んでいる。（以下の各表において同じ。）

2 徳島県計のふるい目幅別収穫量（子実用）及び10a当たり収量

区分	1.70mm 選別	1.75mm 選別	1.80mm 選別	1.85mm 選別	1.90mm 選別	2.00mm 選別	
平成21年産	10a当たり収量(kg)	471	465	456	443	426	345
22	10a当たり収量(kg)	471	467	462	454	438	388
23	10a当たり収量(kg)	463	457	448	436	421	350
24	10a当たり収量(kg)	477	473	466	457	445	392
	収穫量(t)	63,000	62,200	61,200	59,500	57,800	48,600
25	10a当たり収量(kg)	487	481	473	460	447	376
	収穫量(t)	65,300	64,500	63,400	61,700	59,900	50,400
26	10a当たり収量(kg)	452	445	435	419	403	313
	収穫量(t)	59,700	58,700	57,500	55,400	53,300	41,300

注：1 ふるい目幅別の10a当たり収量とは、10a当たり収量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。

2 ふるい目幅別の収穫量（子実用）とは、収穫量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。（以下の各表において同じ。）

3 ふるい目幅別の収穫量（子実用）については、平成24年産より集計・公表を行っている。

3 早期栽培のふるい目幅別重量分布状況

単位：%

区分	計	ふるい目幅					
		1.70mm	1.75mm	1.80mm	1.85mm	1.90mm	2.00mm以上
平成21年産	100.0	1.1	1.7	2.5	3.1	16.9	74.7
22	100.0	0.9	1.2	1.6	2.0	10.3	84.0
23	100.0	1.1	1.7	2.2	3.1	15.4	76.5
24	100.0	0.8	1.3	1.8	2.4	11.7	82.0
25	100.0	1.0	1.2	2.0	2.2	12.4	81.2
26	100.0	1.7	2.3	4.0	4.2	23.7	64.1
平均 値	100.0	1.0	1.4	2.0	2.6	13.3	79.7
対平均差	(ホーポイント)	0.7	0.9	2.0	1.6	10.4	△ 15.6

4 早期栽培のふるい目幅別収穫量（子実用）及び10a当たり収量

年 产		1.70mm 選別	1.75mm 選別	1.80mm 選別	1.85mm 選別	1.90mm 選別	2.00mm 選別
平成21年産	10a当たり収量(kg)	458	453	445	434	420	342
22	10a当たり収量(kg)	453	449	443	436	427	381
23	10a当たり収量(kg)	449	444	436	427	413	343
24	10a当たり収量(kg)	464	460	454	446	435	380
	収穫量(t)	23,700	23,500	23,200	22,800	22,200	19,400
25	10a当たり収量(kg)	468	463	458	448	438	380
	収穫量(t)	24,800	24,600	24,300	23,800	23,200	20,100
26	10a当たり収量(kg)	448	440	430	412	393	287
	収穫量(t)	23,300	22,900	22,400	21,400	20,500	14,900

5 普通栽培のふるい目幅別重量分布状況

単位：%

	計	ふるい目幅					
		1.70mm	1.75mm	1.80mm	1.85mm	1.90mm	2.00mm
平成21年産	100.0	1.2	2.1	3.1	3.8	17.6	72.2
22	100.0	0.7	1.2	1.7	4.0	11.0	81.4
23	100.0	1.3	2.1	2.8	3.3	15.3	75.2
24	100.0	0.9	1.4	1.9	2.6	10.9	82.3
25	100.0	1.4	2.0	3.0	3.2	15.8	74.6
26	100.0	1.5	2.0	3.2	3.2	17.7	72.4
平均 値	100.0	1.1	1.8	2.5	3.4	14.1	77.1
対平均差	(ホーポイント)	0.4	0.2	0.7	△ 0.2	3.6	△ 4.7

6 普通栽培のふるい目幅別収穫量（子実用）及び10a当たり収量

年 产		1.70mm 選別	1.75mm 選別	1.80mm 選別	1.85mm 選別	1.90mm 選別	2.00mm 選別
平成21年産	10a当たり収量(kg)	479	473	463	448	430	346
22	10a当たり収量(kg)	482	479	473	465	445	392
23	10a当たり収量(kg)	472	466	456	443	427	355
24	10a当たり収量(kg)	485	481	474	465	452	399
	収穫量(t)	39,400	39,000	38,500	37,700	36,700	32,400
25	10a当たり収量(kg)	499	492	482	467	451	372
	収穫量(t)	40,600	40,000	39,200	38,000	36,700	30,300
26	10a当たり収量(kg)	454	447	438	424	409	329
	収穫量(t)	36,400	35,900	35,100	34,000	32,800	26,400

7 農家等が選別に使用したふるい目幅の分布

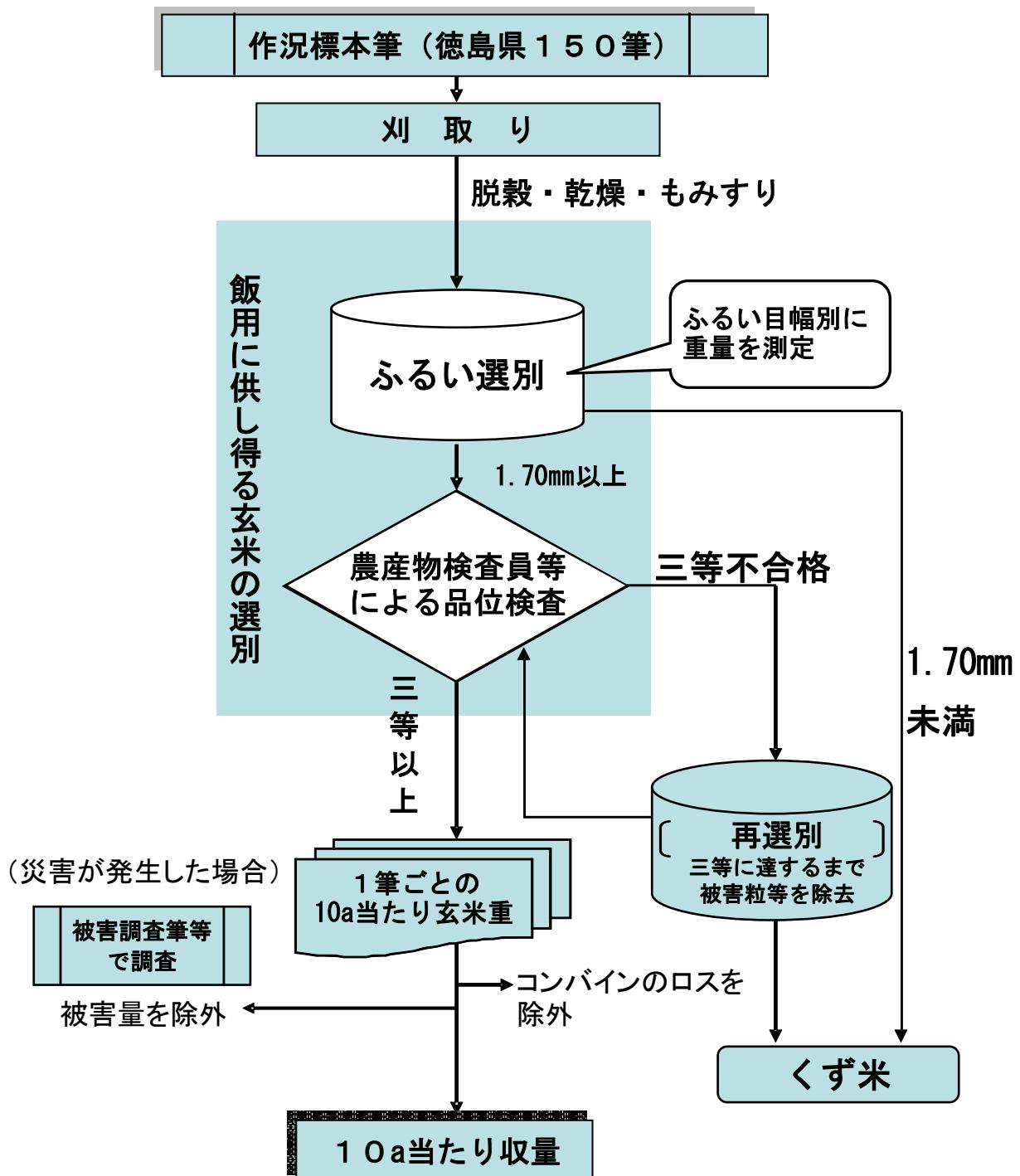
単位：%

区分	合計	1.70mm	1.75mm	1.80mm	1.85mm	1.90mm	2.00mm 以上
徳島県	100.0	0.6	3.9	93.6	1.9	—	—

注： この表は、平成26年産水稻作況標本（基準）筆農家が選別に使用したふるい目幅別の聞き取り結果を農家数割合で示したものである。

【参考2】 収穫量調査の流れ

収穫量調査は、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的として、作況標本筆（P10【参考3】参照）ごとに一定面積の稻を刈取り、農産物規格規程に定める三等の品位（整粒歩合45%）以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mm以上で選別を行い、その重さを計測しています（下図参照）。



【参考3】

ふで 作況標本筆とは

収穫量の実測調査の対象とした作況標本筆（1枚のほ場を筆と呼びます。）は、徳島県の水稻の10a当たり収量が把握できるように、標本理論に基づいて以下のように選定（徳島県は150筆）している。

徳島県内の全ての土地 (母集団)



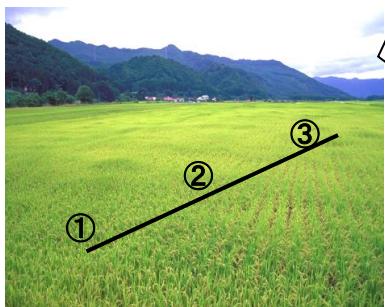
- ① 徳島県の全ての土地を200m四方に区切って編成した単位区のうち、水田が含まれる単位区を調査母集団とし、その中から、無作為抽出法（人間の恣意を排したくじ引きのような選び方）により「標本単位区」を選んでいる。

標本単位区 (200m四方の土地)



- ② 標本単位区の中から無作為に1枚の水田ほ場を選び、「作況標本筆」としている。

作況標本筆 (徳島県は150筆)



- ③ 各作況標本筆の対角線上の3ヵ所（①、②、③）を実測調査箇所として、サンプル採取（坪刈り）を行っている。

【 調査の概要 】

1 調査の目的

本調査は、作物統計調査のうち、水稻作付面積調査及び水稻収穫量調査として実施し、水稻の作付面積、作柄状況・収穫量を明らかにすることにより、生産対策、需給調整、経営安定対策、技術指導、共済事業の適切な運営等の農政推進のための資料とすることを目的としている。

2 調査の区分

北部：徳島市、鳴門市、小松島市、吉野川市、阿波市、美馬市、三好市、勝浦町、上勝町、佐那河内村、石井町、神山町、松茂町、北島町、藍住町、板野町、上板町、つるぎ町、東みよし町
南部：阿南市、那賀町、牟岐町、美波町、海陽町



3 調査対象数

- (1) 作付面積調査
標本単位区：507単位区 巡回・見積り：24市町村
- (2) 収穫量調査
作況標本筆：150筆 作況基準筆：6筆 巡回・見積り：24市町村

4 調査事項

水稻の作付面積、登熟状況、10 a当たり収量、被害状況、被害種類別被害面積・被害量、耕種条件等

5 調査期日

- (1) 作付面積調査：7月15日現在
- (2) 収穫量調査：収穫期

6 調査方法

- (1) 作付面積調査
調査は、標本単位区に対する職員及び統計調査員による実測調査並びに職員による巡回・見積り及び情報収集により行った。
- (2) 収穫量調査
調査は、作況標本筆、作況基準筆及び被害調査筆に対する職員による実測調査並びに作況基準筆調査結果に基づく巡回・見積りにより行った。
ふるい目幅別の調査は、刈取り・もみすりした粗玄米を縦目ふるい（目幅が2.20mm～1.60mmの範囲の縦目ふるい）により、ふるい目幅別に選別し重量を計測することにより行った。

7 集計の方法

(1) 作付面積調査

対地標本実測調査結果を基に、巡回・見積り結果及び情報収集結果により補完し算出している。

(2) 収穫量調査

調査事項について、作況標本筆調査結果を集計し、作況基準筆調査結果に基づく巡回・見積りにより補完し算出している。

ふるい目幅別については、ふるい目幅別の重量の計測結果を所定の目幅（2.00、1.90、1.85、1.80、1.75、1.70）ごとに集計し取りまとめている。

8 用語の解説

(1) 10 a 当たり平年収量

水稻の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況を平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合や作付変動等を考慮し、実収量のすう勢をもとに作成したその年に予想される10 a 当たり収量のことである。

(2) 早期栽培

台風の影響を受けやすい時期に出穂期（しゅっすい期）となることを回避する等から、おむね8月中旬頃までに収穫する目的で作付けする栽培方法である。

(3) 穂 数

単位面積当たりに出穂した全ての穂の数である。収量決定に当たって重要な要素の一つである。

(4) 全もみ数

単位面積当たりの全てのもみの数である。収量決定に当たって極めて重要な要素である。

(5) 登 熟

開花、受精した後、実が肥大し熟れていくことである。生育条件や気象条件、病害虫などの影響を受ける。

(6) 青刈り用等

子実の生産以前に刈り取られて飼肥料用などとして用いられるもの（WCS用稻、わら専用稻等を含む。）のほか、飼料用米、バイオ燃料用米のことである。

9 利用上の注意

(1) 表中で用いた表示区分は、過年次の作況標本筆結果から作成した各指標の平年値に対する比率を次のとおりの区分で表したものである。

多 (良 否)	少 (不 良)	やや少 (やや不 良)	平年並み	やや多 (やや良)	多 (良)
対平年比	94%以下	95~98%	99~101%	102~105%	106%以上

(2) 表中の統計数値については、下記の方法によって四捨五入している。

原 数	5 桁 (10,000)	4 桁 (1,000)	3 桁以下 (100)
四捨五入する桁数（下から）	2桁	1桁	四捨五入しない
例 四捨五入する前（原数）	12,345	1,234	123
	12,300	1,230	123

お問合せ先

中国四国農政局徳島地域センター

農政推進グループ 生産流通消費統計チーム

Tel : 088-625-6990 (内線351) Fax : 088-654-1383

食べて
応援しよう！

被災地を応援



農林業センサス

平成27年2月1日現在で、2015年農林業センサスを実施します。

○農林業経営体調査（平成26年12月中旬～平成27年2月末）

○農山村地域調査（平成27年4～6月末）

円滑な調査の実施に向けて、ご協力をお願いします。

農林業センサスホームページURL : <http://www.maff.go.jp/j/tokei/census/afc>